

令和7年度 青山保育園自己評価表

令和7年度　　青山保育園自己評価表					(数字は%)				A：達成できている B：ほぼ達成できている C：少し努力を要する D：努力を要する	
内容					評価				来年度への改善策	
					A	B	C	D		
Ⅰ　保育の計画性									保育理念・保育指針を 理解するだけでなく、 しっかりと実践に結び ついているか意識しながら 日々の保育を振り返り るようにする。	
1，園の保育理念・保育方針の理解										
①	園の保育理念や保育方針を理解し共感している。	36	54	10	0					
②	園の方針、園長の考え方について園長や主任と話し合い保護者に説明できる。	4	73	23	0					
2，保育所保育指針の理解									子ども一人ひとりの個性 特性を理解し、尊重して 個々に合った計画をして いく。行事への取り組みは 子ども達が意欲的に関わる 環境をつくる。	
①	保育所保育指針を理解し幼児の姿や環境の構成、保育者との関わりなど具体的な事例を思い浮かべる事ができる。	13	64	23	0					
3，全体的な計画の編成と評価									子ども達が主体となる 環境の構成を行い 子ども達の「やって みたい」を満たせる 援助が来ているか、園 全体で改善していきたい。 職員研修の中で、お互い の保育についての課題を 見出し、改善していく。	
①	1年間の子どもの成長を振り返り、全体的な計画を評価している。	17	83	0	0					
②	園の全体的な計画は社会状況や幼児の実態、地域性などを考慮しながら必要に応じて、見直しを行っている。	50	50	0	0					
4，指導計画の作成									子ども達が意欲的に関わる 環境をつくる。	
①	指導計画は幼児の興味や関心、これまでの生活や予想されるこれからの生活など、考慮し作成している。	50	30	20	0					
②	行事は、幼児の生活上、意義を十分検討したうえで、指導計画に組み入れる。	33	67	0	0					
5，環境の構成									子ども達が主体となる 環境の構成を行い 子ども達の「やって みたい」を満たせる 援助が来ているか、園 全体で改善していきたい。 職員研修の中で、お互い の保育についての課題を 見出し、改善していく。	
①	指導計画に基づいて、幼児が主体的に関わりたくなるような、安全で清潔感のある環境構成をしている。	32	50	18	0					
②	楽しい雰囲気の中で、安定して遊びこめるように遊具や用具、素材などの質・数量を配慮して環境構成している。	22	68	10	0					
③	幼児の活動がより豊かになるように、幼児の発想を柔軟に取り入れ、活動の展開に応じて環境の再構成をしている。	18	68	14	0					
④	幼児の発達や生活を見通し、季節の変化に応じた環境構成をしている。	17	73	10	0					
⑤	異年齢の幼児が、自然に交流できるような環境構成をしている。	28	45	27	0					
6，保育と計画の評価・反省									職員研修の中で、お互い の保育についての課題を 見出し、改善していく。	
①	自分の保育と評価・反省について、次の保育と計画に生かせるように行っている。	23	50	27	0					
②	お互いに保育を見せあい、検討し、評価し、反省を加え、幼児の生活と自らの保育につなげている。	14	59	27	0					

Ⅱ 保育の在り方・子どものへの対応							個々のリズムを尊重し、			
1, 子どもへの丁寧な視診や対応							無理なく過ごせるように			
①	朝の登園時は特に視診を大切に、体調が悪くないかを確かめている。	55	40	5	0		努める。			
②	体調が悪そうな時や万が一事故が起きた場合には、適切な処置を行い、すぐに家庭や関係機関に連絡している。	68	27	5	0		食事の際は、楽しく食べる			
2, 子どものみとりと理解							事を、最優先にする。			
①	子どもの話をよく聞いたり、言葉にならないサイン、その姿にある心の動きを理解し、基本的欲求が満たされるよう 配慮している。	27	68	5	0		発達や課題については、			
②	おやつや食事は、楽しく食べられるような声掛けや雰囲気をつくっている。	50	45	5	0		スモールステップで			
③	午睡時間の個人差に配慮し、眠れない子に対しての環境を整えている。	41	45	14	0		アプローチしながら、			
④	個々の子どもの発達の姿や、課題について見通しをもって理解できる。	23	73	4	0		出来た事を喜び合える			
3, 指導と関わり・・・（心のよりどころとして）							子ども達の言葉に耳を			
①	子ども一人ひとりを観察し、ありのままの姿を受け入れ認めるようにしている。	54	36	10	0		傾け、子ども達が自ら成長			
②	子どもとの温かなやりとりやスキンシップを常に心がけている。	58	32	10	0		する力を信じ、関わって			
③	子どもの話をよく聞くようにしている。	50	40	10	0		いけるようにする。			
④	“一人ひとり”とみんなの関係を常に考え、クラス集団をまとめている。	27	41	32	0		子ども達の意見で遊びが			
(遊び・活動の援助者として)							展開していき、更に発展			
①	子どもが、遊びや活動を深めていくためのヒントやアイディアを提供している。	23	54	23	0		していく為に必要な教材			
②	子どもを褒めたり、励ましたり、めあてを持たせるような、言葉かけをしている。	50	45	5	0		や環境を確保していく。			
③	禁止・命令・行動を急がせたり、自信を失わせる言葉や態度はできるだけ控えている。	36	54	10	0		褒める、励ましの言葉			
(その他)							を意識し、子ども達の			
①	子どもの家庭環境や、これまでの成育歴などを考慮して関わっていく。	27	68	5	0		意欲を引き出す言葉			
②	支援を必要とする子どもが入園してきた時、個別の対応やクラスの子どもとともに育ちあえる保育を積極的に進めるように考えている。	14	64	22	0		掛けが出来るように、			
4, 保育者同士の協力、連携							共通理解を深める為			
①	クラスに関係なく、その場にいた保育者が、適切な言葉かけや対応をしている。	36	54	10	0		引き続き職員研修を			
②	指導上配慮を必要とする幼児については、園の保育者全体で、特によく話し合い、共通理解をもって工夫し対応するようにしている。	18	72	10	0		行う。異年齢交流が			
③	保育者の価値観を尊重し、協調性をもって保育がなされている。	18	72	10	0		情緒を育む事を実感して			
④	他クラスや異年齢の子ども達と触れ合うよう、様々な工夫、保育の形態を取り入れている。	22	64	14	0		おり、来年度は計画的			
							に取り入れていきたい。			

Ⅲ 保育者としての資質や・能力・良識・適正							専門知識や技術に関しては、更に深められるよう 全職員が研修や学びの機会が持てるようにする。 保護者の方々との信頼関係をつくる為、日頃の対話や連絡帳、キッズビューでの連携を大切にしたい。又、話やすい環境をつくり、傾聴を心がけ、寄り添いの気持ちを持つ。責任感を持って与れた役割を遂行するよう努める。
1, (専門家としての能力)							
①	保育に携わる者として、専門知識や技能を身につけている。	14	50	32	4		
②	保護者に対して、子どもの事や自分の保育の事をわかりやすく話すことができ、保護者との信頼関係をつくることに努めている。	23	59	18	0		
③	保育者の人間性が、子ども達に与える影響を自覚している。	50	45	5	0		
(良識とマナー)							
①	子どもや保護者との対話には、公平さをかかさないようにしている。	45	45	10	0		
②	朝と帰りの挨拶を明るく、親しみをこめて行い、感謝の気持ちを言葉などで表わしている。	50	45	5	0		
③	服装、髪型、身だしなみなど、清潔感のあるものを心がけ、安全性にも気を付けている。	59	36	5	0		
④	園の消耗品や教材は節約して使い、使用に使っていない。	82	13	5	0		
(義務)							
①	教材、教具の管理、点検、園内外（自分のクラス外）の清掃や整理整頓を実行している。	45	50	5	0		
②	締め切りのある仕事や提出物の締切日、会議や打ち合わせの時間をきちんと守っている。	32	68	0	0		

2，（組織の一員としての在り方）						組織の一員であることを認識し、責任感を持って行動する。 保育に関するニュースを見たり、今の時代に求められる保育は何かを常に考え、アップデートしていく。
①	他の意見を素直な気持ちで聞いたり、自分の意見を述べる事が出来る。	40	50	10	0	
②	子どもの事、クラスの出来事などで必要なことは園長や主任に報告、連絡、相談している。	55	35	10	0	
③	当番や役割による仕事を理解し確実にを行っている。	40	50	10	0	
④	上司の指示・命令には責任を持って確実にを行っている。	45	50	5	0	
3，（まわりを感じられる感性・アンテナ）						
①	子どもや、教育・保育に関する情報を日頃から得ようとしている。	35	60	5	0	
②	社会情勢や季節の変化などを感じ取る感受性を大切にしている。	23	72	5	0	

IV 保護者の対応・守秘義務						各家庭の教育方針はそれぞれ違うので、理解をしながら、保護者の気持ちに寄り添い、情報を交換していく。			
1, 情報の発信と受信						キッズビューやホームページを又時代に合った配信の形で園での様子をリアルに伝えたい。			
①	一人ひとりの子どもについて、家庭での教育方針を把握している。	0	50	50	0				
②	クラスだよりやキッズビュー、ホームページなどで、保育実践の内容や意図・クラスや子どもの様子を、写真やイラストを用いて、分かりやすく伝える工夫をしている。	14	32	40	14				
③	個々の子どもの様子は、直接保護者と話したり、連絡帳、電話を使って伝え合っている。	26	55	14	5				
④	保育参加や保護者との対話を定期的に行い子どもについて保育や家庭の在り方について共通理解を得るように努める	14	50	31	5				
⑤	保護者との情報交換の内容を必要に応じて記録している。	14	58	23	5				
⑥	子育てや就労を支えるために、保護者の気持ちに配慮しながら、接するように努めている。	36	46	18	0				
2, 協力と支援						保護者の方々の要望・意見を聞き、改善策を考えたり、丁寧に説明をする。			
①	保護者からの様々な訴え、要望、意見については安易に受けたり、断ったり、無視したりしないで、園長や主任などに報告や相談をしている。	50	36	14	0				
②	必要場合は、自園の苦情解決システムについて、保護者に説明できる。	13	41	41	5				
3, 守秘義務の遵守						今現在も守秘義務の徹底は図られているが今後もしっかりと守られるように、管理していく。			
①	職員や園の批判を軽はずみにしたり、プライバシーについて他へ漏らしてはいけない。	90	10	0	0				
②	秘密情報（保護者、園児等に関する個人情報、及び、園の運営上の情報、保育技術、保育計画等の情報）について園長の許可なく使用、展示、漏洩していないか？	86	14	0	0				
③	秘密情報の記録が破損、改造されないように管理している。	68	32	0	0				
④	秘密情報について、新たに知り得たことについては、ただちに園長に報告している。	68	32	0	0				
4, 対応上のマナー、良識						相手の立場や気持ちに寄り添いながら、言葉を選んでいく。			
①	正しい日本語、丁寧な言葉と敬語を用いて、話しかけ相手の話も落ち着いてしっかりと聞いている。	30	60	10	0				
②	親しくなったからと言っても、友だち同士のような話し方をしていない。	45	45	10	0				
③	電話では簡潔に要領よく対話する事を心がけている。	31	54	10	5				
④	保護者からの依頼や伝言等については、メモをするなど、きちんと対応している。	35	55	10	0				
⑤	長期の欠席や、入院の場合には連絡を入れたり、園やクラスの様子を伝えたりしている。	32	50	18	0				
⑥	保護者の国籍、思想、宗教により、また子どもの性差、障害、障害、個別差によって、区別、差別していない。	64	36	0	0				
5, クレームへの対応の仕方						丁寧に対応し、話をよく訊き解決していく。			
①	保護者からクレームがあった場合は、まず謙虚にその話を聞き、園長に連絡、報告、相談している。	70	20	10	0				

* 今年度の反省・来年度の目標	園の保育理念を軸とし、職員研修をする中で、「子ども主体」を意識し共通理解の中で保育が出来た。今後の課題として、異年齢交流を計画的に取り入れ、子ども達が自ら考え、意欲的に活動できる環境をつくっていく為に、更に職員のスキル向上をめざしたい。又、青山保育園の特性である自然を生かした保育に努め、安心して預けてもらえる園として、今後も保護者の方々と共に、子ども達の成長を喜び合いながら、地域に根差した保育園でありたい。
-----------------	---